山梨県韮崎市

下横屋第2遺跡

宅地開発にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市

下横屋第2遺跡

宅地開発にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序　　文

韮崎市は、国指定史跡新府城跡を有し、また全国的にも有名な坂井遺跡をはじめ文化財の宝庫として、一般の方々・研究諸氏の注目を集め県内外に広く知られております。
近年は県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財の発見が相次いでいます。

この度発刊された本報告書は、そのような大切な発見が相次ぐ本市のなかでも遺跡が多い藤井平の一角で平成12年に民間の住宅地造成事業に伴い発掘調査された、下横屋第2遺跡の報告であります。

下横屋第2遺跡は弥生時代の集落遺跡である下横屋遺跡の東側に隣接した遺跡で、発見された遺構は弥生時代の土坑2基、奈良・平安時代の掘立柱建物跡などで、出土した遺物は当時の生活用品である土器が主体となっております。調査成果の詳細は本報告文によって頂きたいと思いますが、調査によってもたらされた資料が先人の生活ならびに社会を解明し、地域の歴史復元の一助となればと願うと同時に、文化財として永く後世に伝えることを責務と痛感致します。

最後に、下横屋第2遺跡の調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を頂いた皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成13年3月30日

韮崎市教育委員会
教育長　輿　石　　薫
韮崎市遺跡調査会
会　長　　小　野　修　一

例 言

1 本書は、民間の宅地開発事業に伴い平成12年に発掘調査された下横屋第2遺跡の報告である。

2 発掘調査は、土地所有者小野毅氏の委託を受け韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。

3 発掘調査は平成12年5月12日から6月7日まで行った。

4 整理作業及び本報告書の作成は、韮崎市遺跡調査会が実施した。

5 凡例

挿図中の穴等の数字は床面及び確認面からの深さを表す。

挿図中のドットは焼土を表す。

挿図断面図の▨は石を表す。

縮尺は各挿図ごとに示した。

歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器を表す。

6 発掘調査及び整理作業並びに報告書作成にあたり、多くの方々から御指導・御協力をいただいた。一々御芳名をあげることは避けるが、厚く御礼を申し上げる次第である。

7 発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

発掘調査組織

1 調査主体 韮崎市遺跡調査会

2 調査担当 山下孝司(韮崎市教育委員会社会教育課)

3 調査参加者

小沢高恵・小沢千代子・乙黒きくゑ・小沢治代・小沢栄子・五味ゆき子・大柴欣子

4 事務局 韮崎市教育委員会社会教育課

教育長 輿石薫、課長 真壁静夫、課長補佐 下村貞俊、係長 大木純・小沢仁、閏間俊明・齋藤進

目　次

序　文
例　言
目　次
挿図目次
写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯と概要……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境　……1
　1遺跡の立地
　2周辺の遺跡
Ⅲ　遺跡の地相概観　……5
Ⅳ　調査の方法　……5
Ⅴ　遺構と遺物　……5
Ⅵ　まとめ　……11
写真図版

挿図目次

第1図　下横屋第2遺跡①と周辺の遺跡（１／25000）…… 2
第2図　下横屋第2遺跡位置図（１／10000）　…… 3
第3図　下横屋第2遺跡位置図（１／2500）　…… 3
第4図　下横屋第2遺跡全体図（１／500）　…… 4
第5図　１号竪穴平・断面図（１／20）　…… 6
第6図　１号掘立柱建物跡・1号土坑平面図（1／40）　…… 7
第7図　１号掘立柱建物跡平・断面図（1／40）　…… 9
第8図　１号竪穴出土遺物（1／4）　……10
第9図　１号土坑出土遺物（1／4）　……10
第10図　１号掘立柱建物跡出土遺物（1／4）　……10
第11図　遺構外出土遺物（1／4）　……10

写真図版目次

図版１　遺跡近景・１号竪穴・１号竪穴土器出土状態
図版２　１号土坑・発掘風景・１号掘立柱建物跡
図版３　１号掘立柱建物跡柱痕跡・１号掘立柱建物跡断面・１号掘立柱建物跡①柱穴土層断面
図版４　１号掘立柱建物跡②柱穴土層断面・１号掘立柱建物跡③柱穴土層断面
・１号掘立柱建物跡④柱穴土層断面
図版５　１号竪穴出土遺物・１号土坑出土遺物・１号掘立柱建物跡出土遺物

Ⅰ 調査に至る経緯と概要

平成12年に韮崎市藤井町北下条字下横屋1476―6ほかの土地にかかり、宅地造成の開発申請がなされた。当該地域は、平成元年度に雇用促進住宅造成事業実施にともない発掘調査された下横屋遺跡の東側に隣接しており、遺跡の存在が予測されたため、本市教育委員会では事業予定地区を平成12年2月15日に試掘調査を行い遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、市教育委員会と土地所有者・造成業者とで協議を行い、遺跡名を下横屋第２遺跡とし、工事に先立って面積約280㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成12年5月12日より開始し6月７日まで行った。引き続き整理作業を行い、報告書作成は平成12年度に行った。

Ⅱ 遺跡の立地と環境

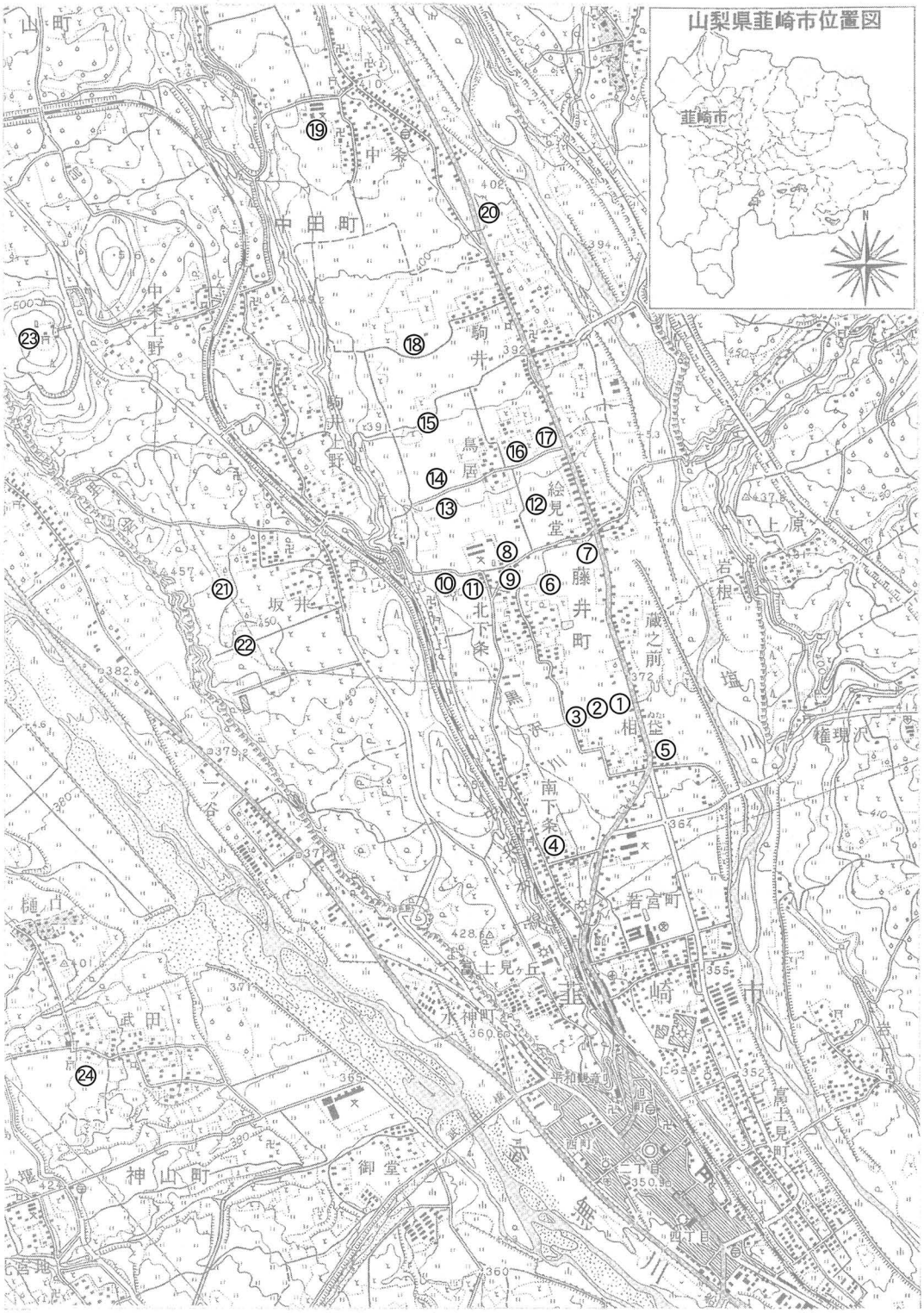
1 遺跡の立地

下横屋遺跡は山梨県韮崎市藤井町北下条字下横屋地内に所在した。小字名を遺跡名としたが、当該地域で2番目の調査となることから第2を付けた。

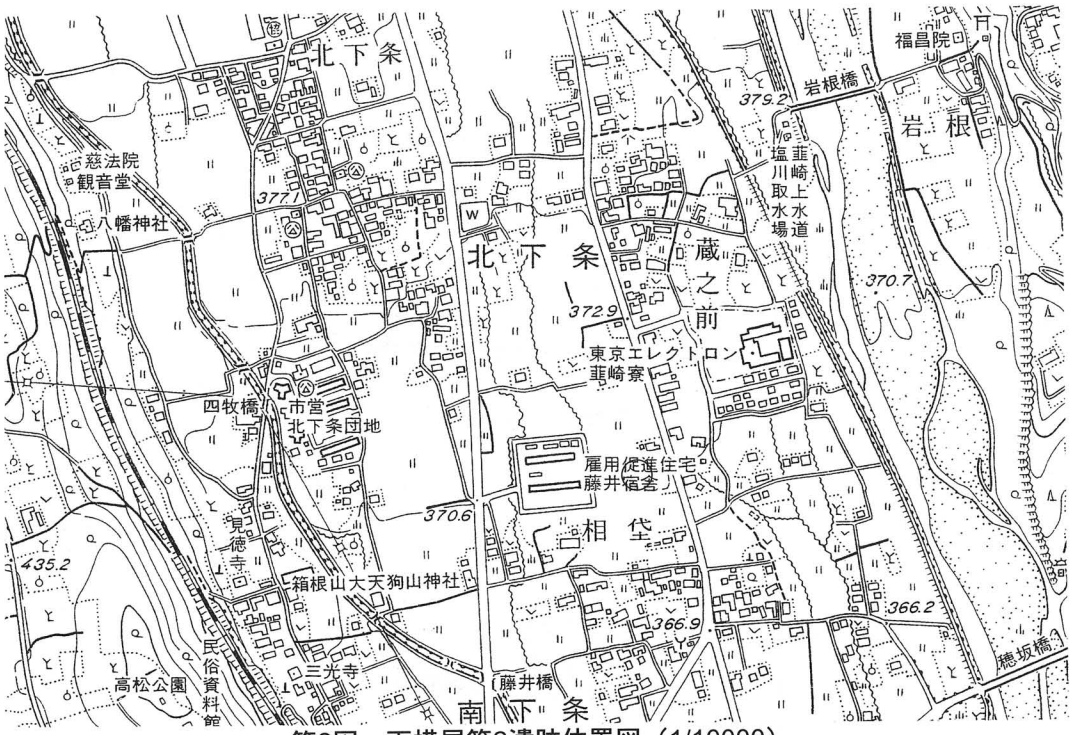
韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。塩川右岸の氾濫原は、塩川の侵食によって造られた茅ヶ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地と低地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高地上に遺跡が点在しており、下横屋遺跡は標高約370ｍの水田下に発見された。

2 周辺の遺跡

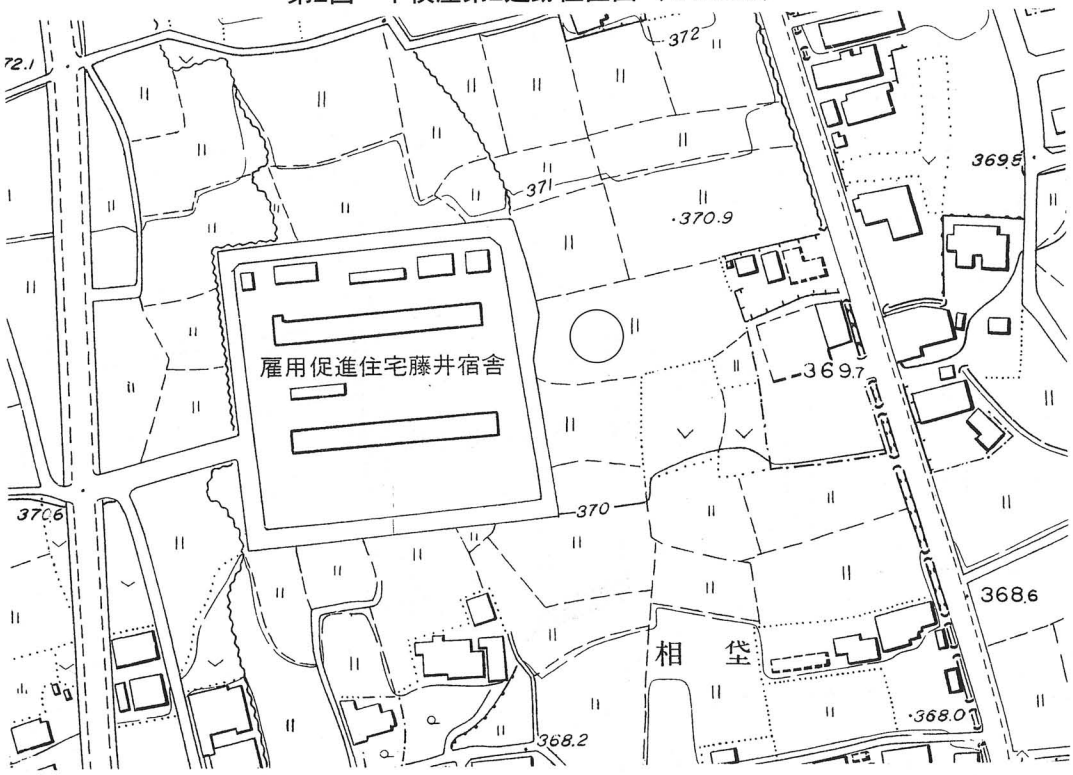
韮崎市は、下横屋第２遺跡①の所在する藤井平をはじめとして、数多くの遺跡が分布している。縄文時代では、著名な坂井遺跡㉑をはじめ、山影遺跡④、三宮地遺跡⑩、後田遺跡⑬、新田遺跡㉔などがある。弥生時代では下横屋遺跡②があり、古墳時代では、坂井南遺跡㉒、琵琶塚遺跡⑤、後田第2遺跡⑥、後田堂ノ前遺跡⑨、上横屋遺跡⑦、火雨塚古墳⑪がある。奈良・平安時代は、宮之前遺跡⑮、宮之前第2遺跡⑱、宮之前第3遺跡⑯、宮之前第4遺跡⑰、北後田遺跡⑭、堂ノ前遺跡⑫、坂井堂ノ前遺跡⑧、北下条遺跡③、中田小学校遺跡⑲、下木戸第2遺跡⑳がある。中世では、国指定史跡新府城跡㉓がある。



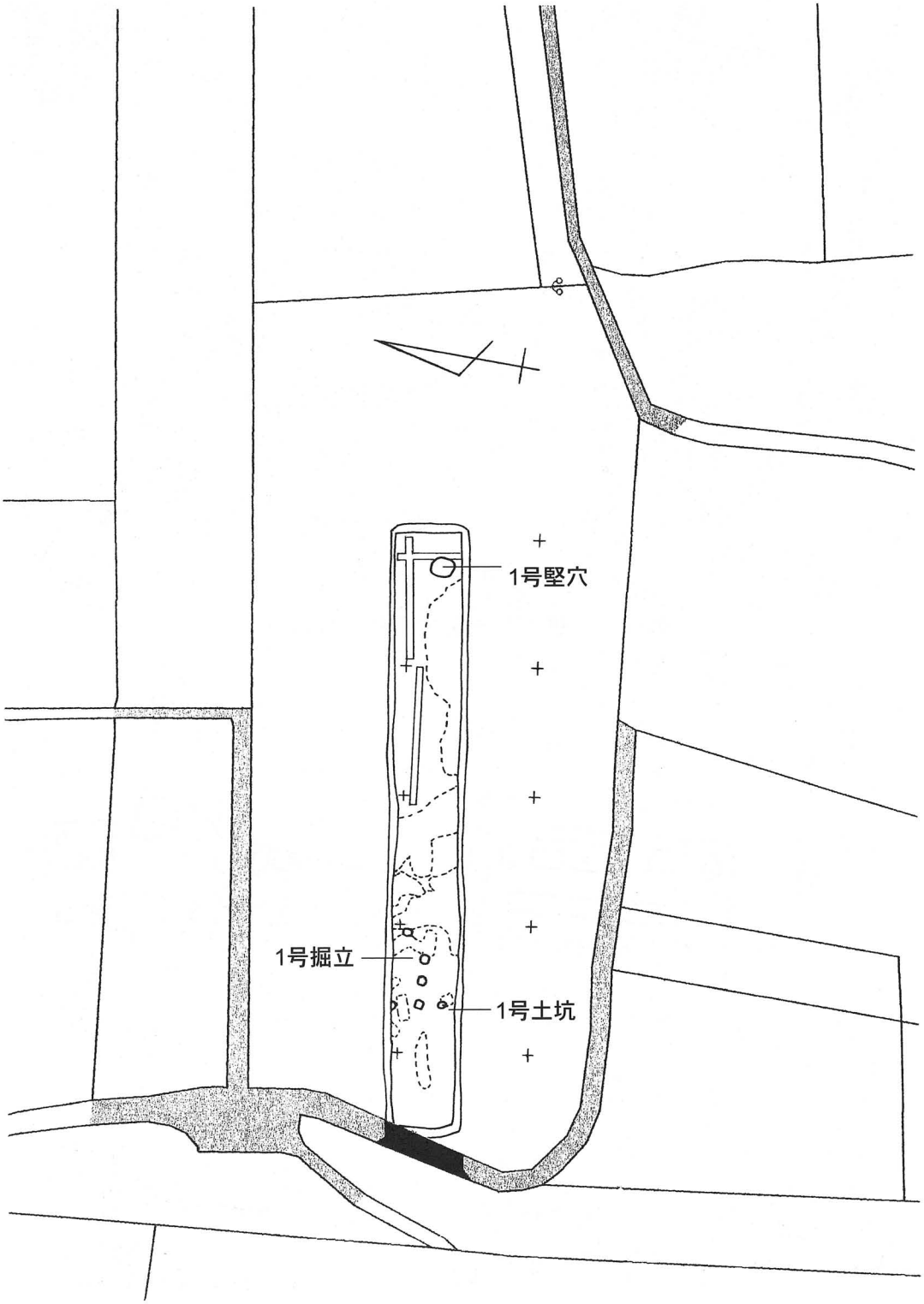
第1図　下横屋第2遺跡①と周辺の遺跡（1/25000）



第2図　下横屋第2遺跡位置図（1/10000）



第3図　下横屋第2遺跡位置図（1/2500）



第4図　下横屋第2遺跡全体図（1/500）

Ⅲ　遺跡の地相概観

下横屋遺跡は、韮崎市文化ホールから600m程南東側の、東西両側を小沢に挟まれた微高地の尽きる所に所在した。遺跡の西側には北下条遺跡があり、昭和57年度に一部発掘調査され現在道路になっている。北側へは微高地が続く。現在遺跡は雇用促進住宅となっており、今回の調査区域はその東隣である。北端において土層を観察すると、上位から下位に整地盛土層、耕作土・水田床土・暗灰褐色砂質土の順に堆積がみられる。遺構は暗褐色砂質土層中に掘り込まれていた。

Ⅳ　調査の方法

試掘調査の結果をもとに調査区域を決め、遺物包含層・遺構確認面までを機械により排土作業を行い、地形等を考慮し任意に10m四方の方眼を設定。鋤簾等により精査を行い、遺構確認の後掘り下げを行った。また随時補助的試掘小溝を設定し、遺構の確認等を図った。

Ⅴ　遺構と遺物

調査の結果発見された遺構は、弥生時代土坑2基、奈良・平安時代の掘立柱建物跡1棟となっている（第４図）。以下、時代別に遺構と遺物について記す。

1　弥生時代

＜１号竪穴＞（第５図・第８図）

〔遺構〕

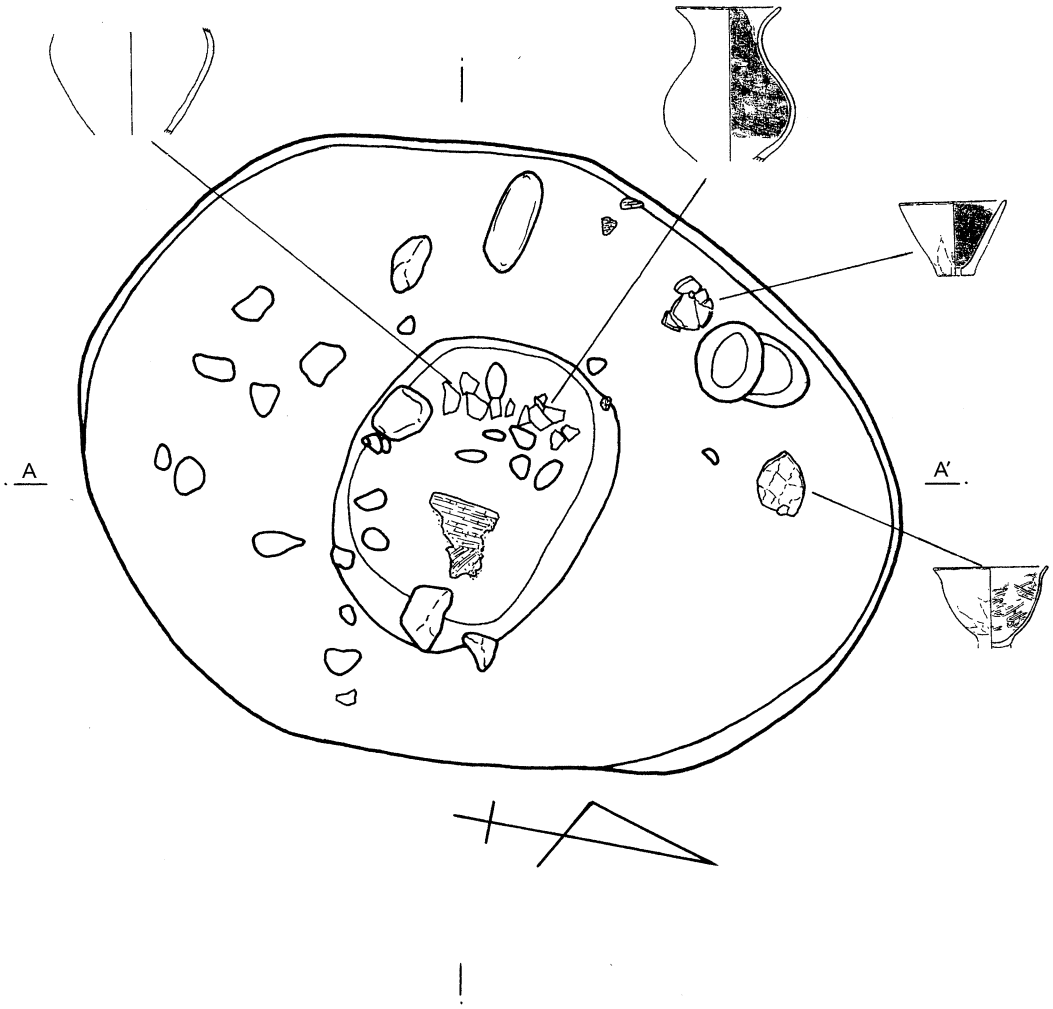
調査区域東端に位置する。表土層廃土後、黒褐色の落ち込みと土器破片を発見し、遺構として掘り下げる。当初住居跡と思われたが、落ち込みが浅く竪穴とした。平面形は卵形で、規模は東西1.5m南北2.0mを測る。壁高は高いところで3cm前後を測る。壁は外傾し立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、中央部分が窪む。埋没土中には炭が散っており、中央に炭化材がみられた。本遺構の性格は不明。

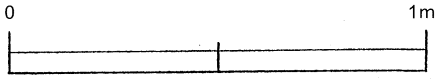
〔遺物〕

中央から北西よりに点在。

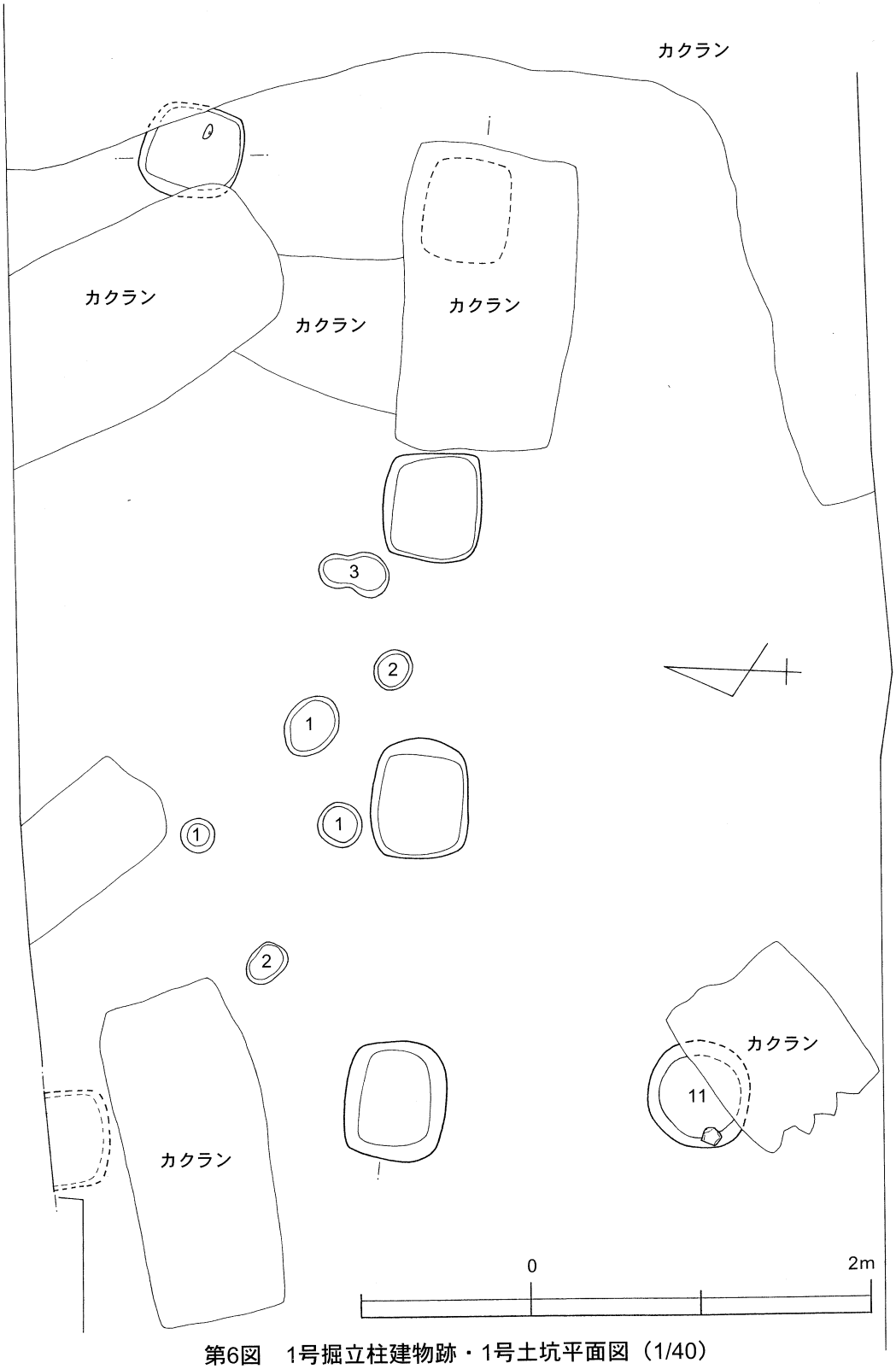
１は鉢。口径10.4cm、器高7.1cm、底径3.6cm。底部から直線的に口縁部まで斜めに開き、底部に単孔があく。3分の1欠損。色調は内面はにぶい黄褐色、外面はにぶい褐色を呈する。胎土は白色・乳白色・黒色・赤褐色粒子・金色雲母を含む。口縁部は横撫でされ、外面は磨滅しているが縦方向の細かい撫で、内面は横方向の撫でが施される。

２は小型台付甕であるが、脚台部を欠損する。口縁部は「く」の字形に外反し、口唇部に刻目





第5図　1号竪穴平・断面図（1/20）



第6図　1号掘立柱建物跡・1号土坑平面図（1/40）

がめぐる。口径は11.2cm。色調は内外面ともに明赤褐色を呈し、黒斑がある。胎土は白色・黒色粒子・金色雲母を含む。口縁部は横撫でされ、外面は刷毛整形の後撫で、内面は細かい棒状工具による磨き状の撫でが施される。

3は小型壷。底部を欠損する口縁部～胴部の破片。口径は10cm。口縁は単純口縁で、胴部はほぼ球胴で、最大径12.8cmを測る。色調は、内面はにぶい黄褐色～黒褐色、外面はにぶい橙色～褐灰色を呈する。胎土は白色粒子・金色雲母・雲母を含む。口縁部は横撫で。内面頸部下から胴部外面は細かい刷毛整形の後、丁寧な撫でが施され、胴部内面は刷毛目痕がみられる。

4は口縁部破片であるが、器形は鉢か不明。器面に削り痕がみられる。色調は赤褐色を呈し、胎土は白色・黒色・赤褐色粒子を含む。

5は小型壷の底部破片。底径4.9cm。色調は内面はにぶい橙色、外面はにぶい黄褐色を呈し、胎土は白色・黒色粒子、金色雲母を含む。整形は内面撫で、外面削り。

6は甕の胴部破片。色調は内面は黒褐色、外面は赤褐色を呈する。胎土は白色粒子・雲母粒子を含む。整形は内面は丁寧な撫で、外面は刷毛の後撫でが施される。

7は小型壷の肩部破片。色調はにぶい橙色。胎土は白色粒子・雲母を含む。整形は内外面ともに撫でられる。外面には、頸部に撫でにより消されているが櫛描波状文がみられ、その下に櫛描円弧文がつづく。

8は甕の胴部破片。色調は黒褐色を呈し、胎土には白色粒子・雲母・金色雲母を含む。内外面ともに撫で整形。

＜1号土坑＞（第6図・第9図）

〔遺構〕

調査区域西側に位置する。表土層廃土後、暗褐色の落ち込みを確認し、掘り下げる。南東側はカクランにより不明。直径65cm程の円形の穴で、確認面からの深さは11cm程ある。西辺から打製石斧が出土した。

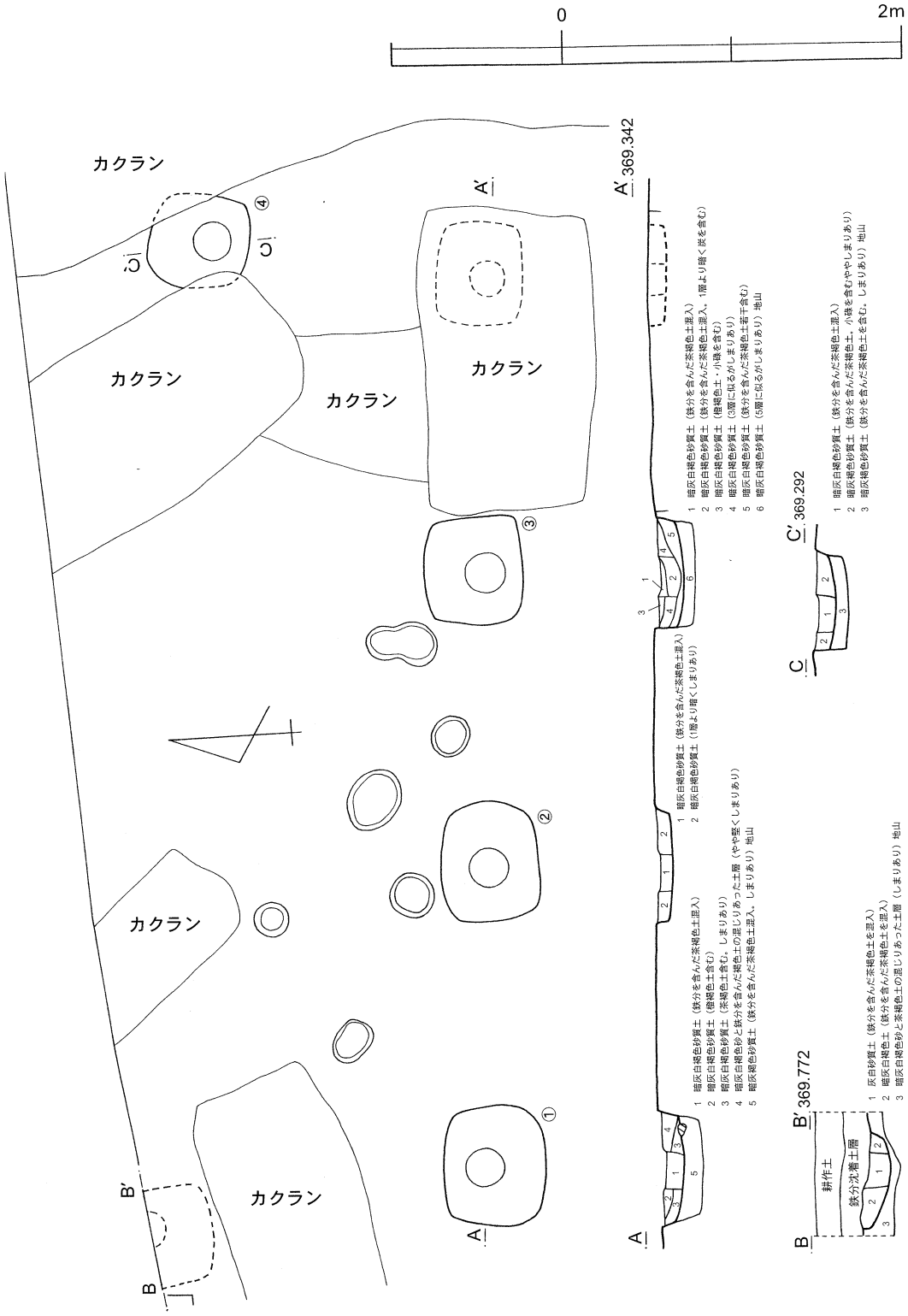
〔遺物〕

1は打製石斧。幅10cm。石材はホルンヘルス。一部自然面をのこす。基部の方を欠損するが、いわゆる弥生時代の石鍬であろう。

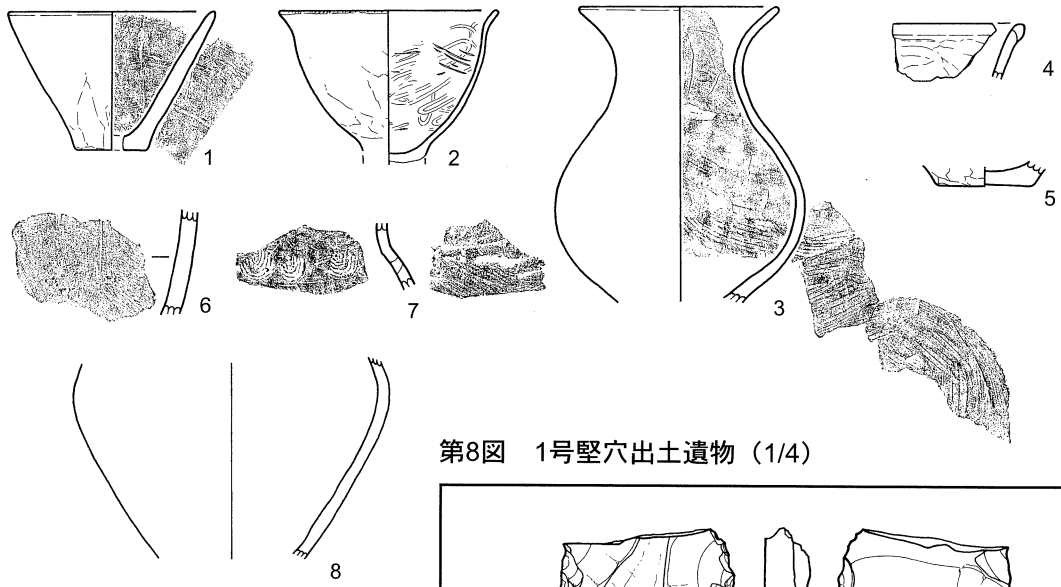
＜1号掘立柱建物跡＞（第6図・第7図・第10図）

〔遺構〕

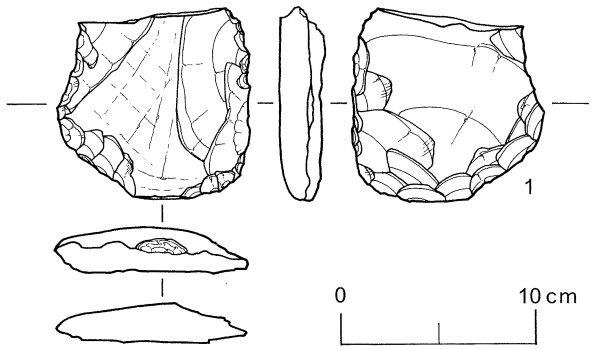
調査区域東西側に位置する。北側は調査区域外で完掘できなかった。重機によるカクランで南東角の柱穴は遺存していない。表土層廃土後の土層断面で柱穴の落ち込みを1箇所確認し、ほぼ等間隔に並ぶ暗褐色土の落ち込みを確認し掘り下げた。3間×3間の方形、あるいは2間×3間の東西方向に長い長方形の側柱建物であろうか。柱の直径は23cmで、東西方向の柱間は約1.5m、南北方向は約1.8mを測る。柱穴の掘り方は不整な方形で、確認面からの深さは、10～15cm程。本遺構からは時期を示すような遺物の出土はみられないが、奈良・平安時代の所産であろう。



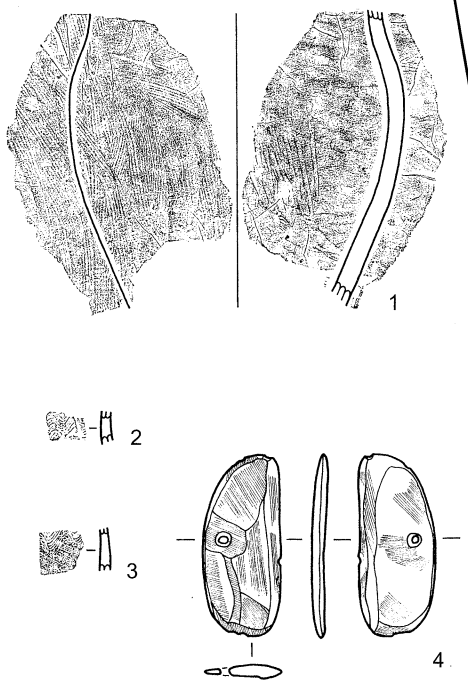
第7図　1号掘立柱建物跡・平・断面図（1/40）



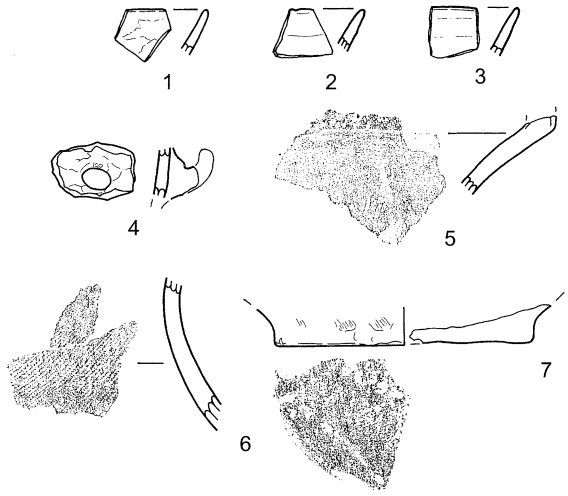
第8図　1号堅穴出土遺物（1/4）



第9図　1号土坑出土遺物（1/4）



第10図　1号掘立柱建物跡出土遺物（1/4）



第11図　遺構外出土遺物（1/4）

〔遺物〕

東端の柱穴から石包丁、南側柱穴列の西から3番目の穴から甕破片が出土している。

1は甕の胴部破片。色調は内面はにぶい橙色、外面はにぶい黄褐色を呈し、胎土には白色粒子・雲母・金色雲母を含む。内面は撫で整形、外面は斜めから縦方向の刷毛目痕。

2は甕の破片。色調は内面は褐色、外面は黒褐色を呈し、胎土は白色粒子、金色雲母を含む。外面に櫛描波状文がみられる。

3は甕の破片。色調は内外面ともに褐色を呈し、胎土は白色粒子を少量含む。外面に櫛描波状文がみられる。

4はほぼ完形の磨製石包丁。黒灰色の粘板岩製で単孔があく。刃部は直刃。背部は弧状に仕上げられる。幅3.95cm、長さ9.3cm、厚さ0.7cm。重さ36.6グラム。

＜遺構外出土遺物＞（第11図）

1・2・3は、土師器坏の口縁部破片。いずれも胎土に砂粒・赤褐色粒子を含み、色調はにぶい橙色を呈する。

4は、把手の付いた鉢の破片。胎土は白色粒子・金色雲母・雲母を含む。色調は明褐色を呈する。撫で整形。

5は有段口縁の壷の口縁部破片。胎土は白色粒子・金色雲母・雲母・赤褐色粒子を含み、色調は内面は灰褐色、外面はにぶい橙色を呈する。撫で整形。外面に縄文がみられる。

6は壷の頸部破片。胎土は白色粒子・金色雲母を含む。色調は、内面は灰褐色、外面は橙色・褐灰色を呈する。撫で整形。外面に縄文が施される。

7は壷の底部破片。胎土は白色・乳白色粒子を含む。色調はにぶい黄橙色を呈する。内面は剥離している。外面は撫で整形で、刷毛目痕がみられる。

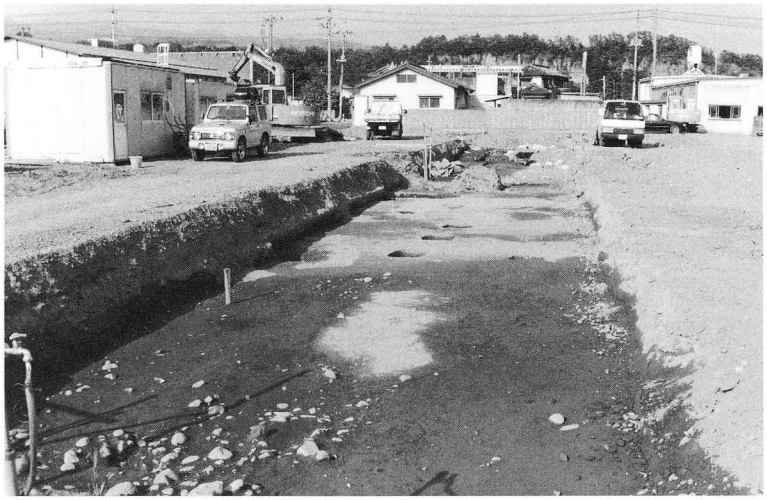
Ⅵ まとめ

今回の調査は道路敷部分のみの発掘であり、道路以外の宅地には造成・建築工事が及ばないため遺跡が保護される結果となっている。

発見された遺構は、弥生時代土坑2基、奈良・平安時代の掘立柱建物跡1棟であった。西側隣地の下横屋遺跡、さらに北下条遺跡からは、弥生時代、奈良・平安時代の遺構が調査されており、ほぼ同時代である下横屋第2遺跡との関連が注目される。出土した遺物は、当時の生活を物語る貴重なものであり、なかでも石包丁や石鏃は、弥生時代の農耕を知り得る大きな成果であろう。

本報告は限られた時間のなかでの作業によってまとめられたものであり、遺構と各遺構にともなう遺物を中心に資料化を試み、それらを掲載・提示したにすぎない。調査の成果と資料の詳細な検討・考察がなされず、不十分なことは否めないが、今後の調査研究に資すれば幸いである。

写　真　図　版



遺跡近景

1号竪穴

1号竪穴土器出土状態

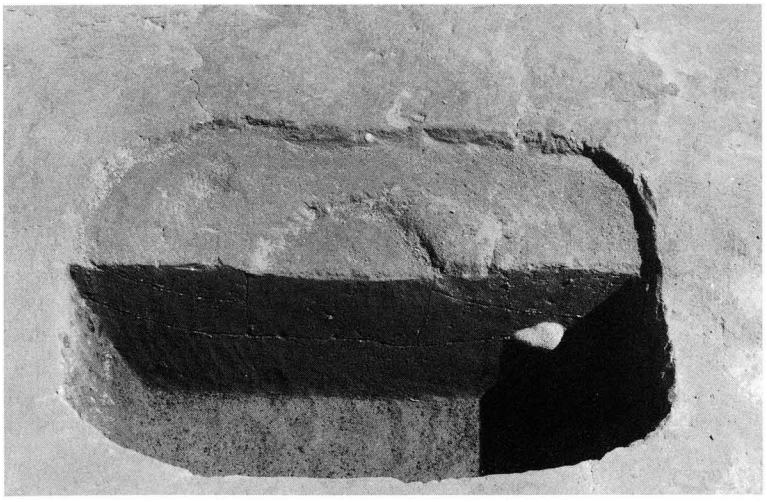
1号土坑

発掘風景

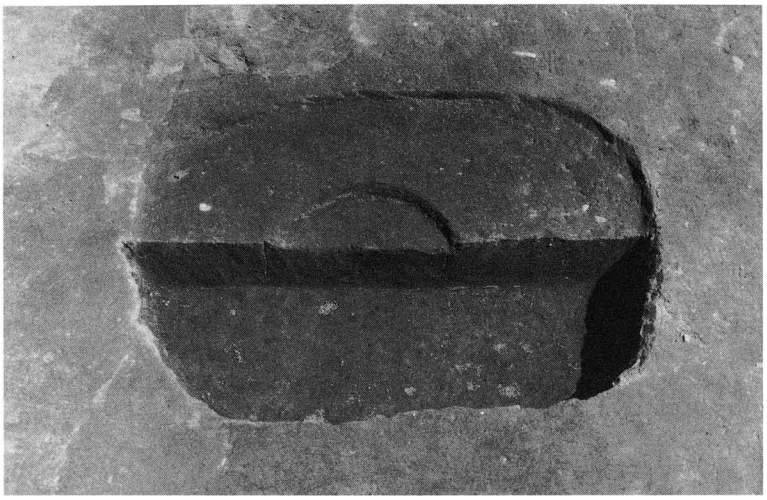
1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡
柱痕跡

1号掘立柱建物跡
断面

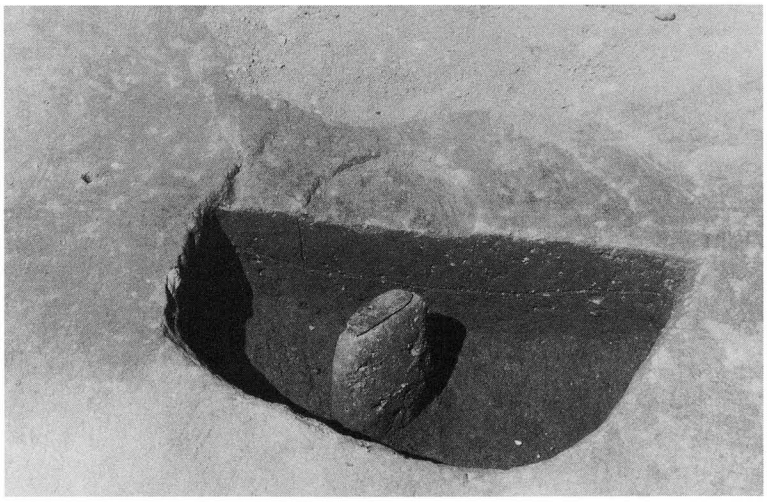


1号掘立柱建物跡
①柱穴土層断面

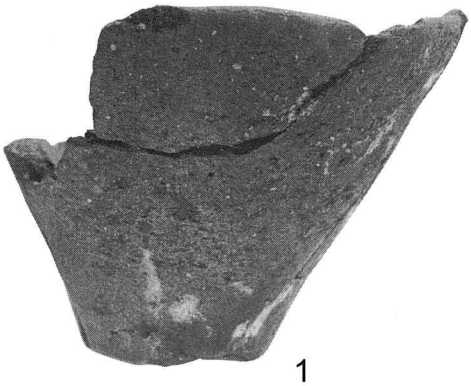


1号掘立柱建物跡
②柱穴土層断面

1号掘立柱建物跡
③柱穴土層断面



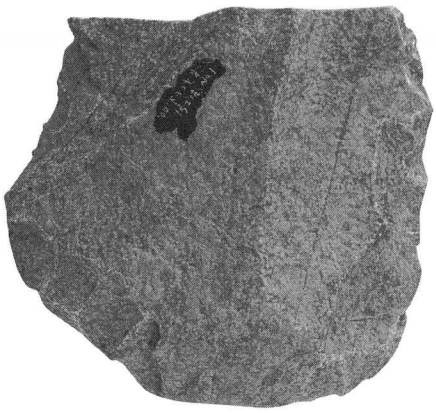
1号掘立柱建物跡
④柱穴土層断面

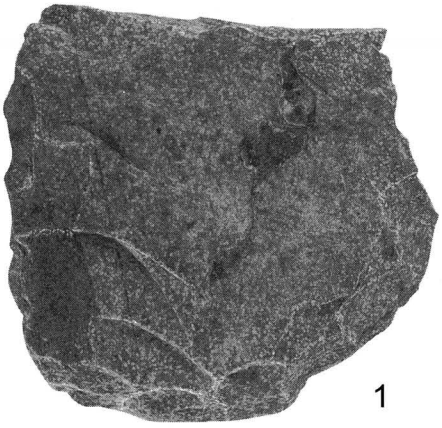


1

2

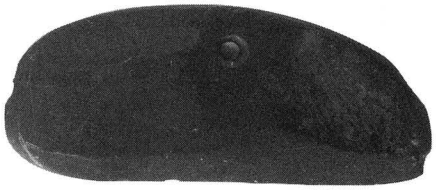
1号堅穴出土遺物

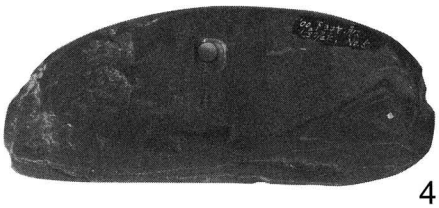




1

1号土坑出土遺物





4

1号掘立柱建物跡出土遺物

下横屋第２遺跡

発　行　日　　平成１３年（２００１）３月３０日
編集・発行　　韮崎市遺跡調査会
　　韮崎市教育委員会
　　〒407－8501
　　山梨県韮崎市水神１－３－１
　　TEL ０５５１－２２－１１１１
印　　刷　　有限会社　中央印刷